

MACHI-KADO

(財)静岡市文化振興財団

蒲原

あの日あの時

蒲原周辺

路地裏散策

特集

「NPOと蒲原」



Information

(財)静岡市文化振興財団インフォメーション

静岡音楽館AOI・静岡アートギャラリー・

静岡科学館るくる共同事業

チケットでスマイル
Ticket de Smile

あの日あの時

蒲原
KANBARA



▲町の写真(昭和31年11月17日)

旧 東海道の町並みを今に残す歴史ある町・蒲原。
縄文時代の半ばには台地に集落を形成し居住していた。蒲原という地名は蒲(ガマ)が一面に繁茂していたためその名が生まれたとも言われている。
戦国時代、駿河の今川氏が築城したといわれる蒲原城は、戦国大名の軍略的な重要拠点として壮絶な戦いが行われたという。
東海道が整備された江戸時代には、「蒲原宿」として交通の要を担い、たいへん栄えたという。江戸時代の画家安藤広重が描いた「蒲原夜之雪」は、シリーズ中の最高傑作といわれている。

町 の写真は「和泉屋」の鈴木義和さんが、自分の家の回りはどんな風になっているのだろうかと思い、城山の上から撮影したものだという。当時の蒲原の朝の風景は朝5時に起きてかまどに薪で火をつけ、竹ぼうきで道を掃くことから始まった。
当時、今のようにアスファルトで舗装された道ではなく、土の道だったために、道の中央へ掃きだされた土で、こんもりと山ができていた。



▲和泉屋の前で(昭和39年5月3日)

当 時の多くの家は、いわゆる町家造りのなごりで、玄関から奥まで続く長い土間があり家の奥から外までごみをはき出していた。しかし当時商売をやっていた鈴木さんのお宅では、お客さんを招き入れるということで、反対に外から家の奥へ掃き出すのが習慣だったという。

昭 和30年代は台風がよくきた記憶があるという。「戦争に負けたから、こんなに台風が来るのかと思った」と鈴木さんは言う。確かに昭和30年～40年にかけては死者の出るような大きな台風が多かったようだ。昭和41年の台風26号では全県下、特に中部で被害が大きく、「9月25日1時半頃、4mの防潮堤を越えて高波が襲った。被害は全壊17戸、半壊51戸、みかんの50%、水稲の70%に損害を生じた」との記録がある。



▲蒲原宿本陣の図

和泉屋【いずみや】

本陣の前に建つ和泉屋は、明治22年まで上旅籠だった。

その面影が、2階の洒落た櫛形の手すりで見られる。



▲鈴木 義和さん

現在は鈴木義和さんがタバコ店を営んでいる。天井には漆喰でできた(前持ち主の)家紋が彫られており、立派な大黒柱、古代塗りの盆やお花見弁当箱など、時代を感じさせるものが各所に見られる。築170年ほど経つのだそう。神社仏閣でよく見られる「もちおくり」という彫刻も見られる。

▼現在の和泉屋



和泉屋の貴重な品々



▲古代塗りの盆「蒲原古代塗」
(蒲原町教育委員会発行)より



▲彫刻入りの柱「もちおくり」



▲古代塗りのお花見弁当

蒲原

かんばら

路地裏散策

1 井上竹炭工業

竹炭は大地からの贈り物。竹炭には地中根から吸い上げられたカルシウム、カリウム、ナトリウム、鉄分等の天然ミネラルが豊富にバランスよく含まれている。ここの竹炭シートは、今まで不可能だった竹炭のシート化を実現。特許を取得。もちろん竹炭の効果は失わずに。シートを敷いて寝れば偏頭痛も筋肉痛も和らぐこと間違いなし。その他に、脱臭効果が高く、マイナスイオンを発するという竹炭や、肌荒れに効く竹酢液など、ストレスフルな現代人にオススメな商品が盛りだくさん。お店は工場の後ろにあるのでお見落とし無く。



2 蒲原館

蒲原の老舗食堂の「蒲原館」。食堂の名前にしては珍しいと思ったところ、元々は旅館として経営していたとのこと。昭和29年に旅館に併設する形で食堂をはじめたとのこと。お店のオススメは、醤油ベースのさっぱりスープのラーメン。鮮度のよい食材にこだわり、毎日朝6時から仕込むスープを味わって欲しいとのこと。お話を伺った店主の



望月昇(もちづき のぼる)さんは、蒲原について「人がよく、人情が厚い」と印象を語ってくださったが、望月さんそのものがまさしくそうであった。野菜の仕入先が蒲原出身の有名アーティストの実家という。本人も年に一度は訪れるようだ。おすすめのラーメンをぜひ一度味わってみては。



モダンとレトロが調和する
歴史の町を歩いてみませんか。



3 まるげん

創業60年。現在の社長が2代目。3代目を継ぐ息子さんも活躍中。従業員10名。

蒲原の特産品の一つにあげられるのが「イワシの削り節」。こちらまるげんでは、その特産品である「イワシの削り節」を作っている。「イワシの削り節」は鰹の削り節より繊細な工程が必要になる。(「イワシの削り節」の工程図参照) この「イワシの削り節」の利用方法は、だしを取るだけでなく、様々な用途に使われる。静岡では、富士宮やきそばや静岡おでんのトッピングなど

に使われ、なくてはならない逸品である。

また、こちらまるげんでは、イワシの削り節の他に、鰹の削り節や、駿河湾産100%の桜エビ・しらすがうなぎ製品等を扱っており、インターネット(14ページ参照)から注文できる。調理レシピも付いており、クール便で輸送してくれるので、蒲原へ行かずとも新鮮な海の幸が味わえる。



「イワシの削り節」

①九州(長崎県平戸市等)から取り寄せたイワシ「煮干し」の頭を一つずつ手作業でとる。とても地道な作業。ここが、鰹と違う。



②頭を取ったイワシを、大きな桶で水に浸す。
③粘りを出すために蒸気で蒸す。もち米を炊くのと同一原理。この工程を行わないと、削り節ではなく、粉になってしまう。



④天日で3~4時間干す。

手作業はここまで。ここからは機械作業。

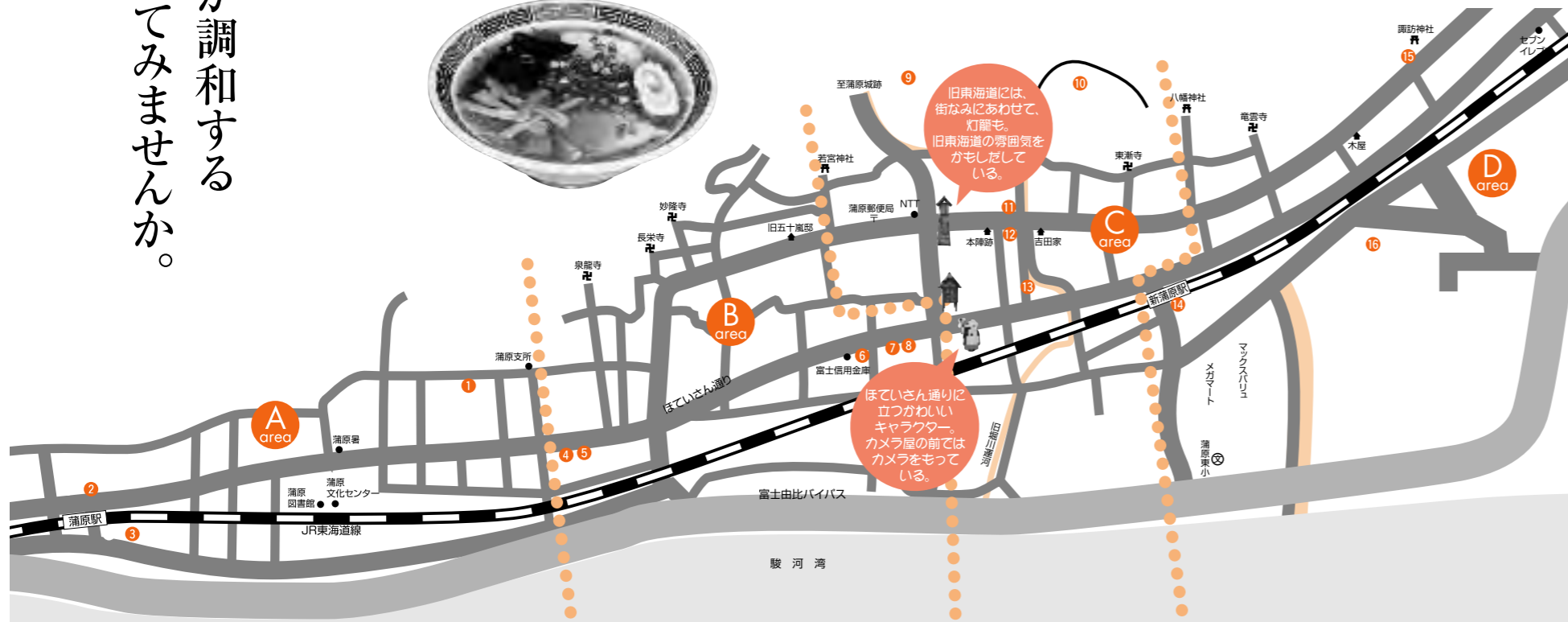
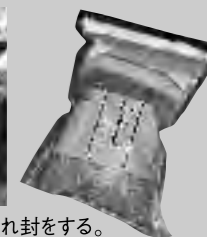
⑤かんなが16枚付いた機械にイワシを入れ、削る。かんなの刃は観覧車のように輪になってまわっている。そこへイワシが落ち、削られていく。



⑥手作業で計量し、袋詰め。



⑦品質保持のため、窒素ガスを入れ封をする。出来上がり!



4 スーパー「エコー」

創業昭和55年。現在の社長が創業者。蒲原の台所として、食品から生活用品まで、何でもそろっている。エコーの売りは、なんとと言っても出来たてのお弁当! 売り場から見える調理場で作られた幕の内弁当(¥525)は、すぐに売切れる。また、エコーのもうひとつの名物は、「イルカスマシ」(1パック¥500)。スマシとは背ビレのこと。イルカを食すところは数あれど、蒲原での食し方は塩茹でにし、お酒とともに珍味として食す。この食べ方は、由比・蒲原地域独特のものだそう。大型スーパーが増える中、地元密着型スーパーとして、今日も店内から元気な声が響く。



5 オーリオ

本格釜焼きのピザが味わえるイタリアンレストラン「オーリオ」。入口を入ると広い店内がひろがり、ワインやデザートがずらっと並んでいる。和の趣が溢れる街並み「蒲原」にいる事を忘れてしまいそう。ランチは日替わり一品にスープ、カットピザ、サラダバー、ドリンクバーがついて980円!! プラス200円でデザートも付けることができる。子どもを連れてイタリアンレストランは気が引ける…と



いう方も安心して食べられるKid's roomもある。実際に釜でピザが焼かれている様子を見ながら食べるイタリアンは、格別のものがある。



6 よし川

うなぎと桜えび、地魚料理のお店。50年継ぎ足してきた秘伝のタレと炭火でじっくりと焼き上げたうなぎ、新鮮な桜えびを使った料理は絶品。女将は2代目の吉川千鶴子さん。和風の店内にはジャズが流れ、大変ムーディーである。お得なランチセットは、うなぎのまぶし丼・地魚丼(サラダ・コーヒー付1,000円)。蒲原には、桜えびの干し場があり、春・秋の漁期には、県内外から多くの方が訪れる。最近では娘さんが作るお店のホームページを見て来店するお客様



も多いそう。女将さんは生粋の蒲原人で、地元ほていさん通り商店会の仲間と「静岡市の東の玄関口」としての蒲原のPRに励んでいる。



7 サトウ時計店

ほていさん通り商店街の一角に立つ「サトウ時計店」。店内には昔ながらの時計店の雰囲気が漂う。店主の佐藤さんは、照れながらも取材に応じてくれた。静岡市となった蒲原についてうかがってみると、「宿場町として全国的に有名な蒲原が、静岡市という名に隠れ、存在が薄くなってしまっているのではないか」「蒲原ならではの町並みや趣を残して欲しい」との意見だった。バイタリテイ溢れる蒲原の人々の本音を垣間見た気がした。



8 ニットショップクサガヤ

「クサガヤ毛糸店」として1950年に開店。当時は物の無い時代。毛糸は何回も編みなおし繰り返し使われていた。それから時は流れ既製品が主流となったとき、方向転換。商品をニット中心からコート、フォーマルなどあらゆるシーンに対応できる品揃えに変化させ、店名も「ニットショップクサガヤ」に変更。現在店内にはミセスに対応し、価格帯にも幅を持たせた7号から17号サイズまでの服が揃っている。得意分野はちょっと大きめの好感度の高い服。また、パンツの種類が豊富なのできつとお気に入りの一着が見つかるはず。



9 善福寺そば処

御殿山に登る途中にある昔ながらの佇まいの「そば処」。陽気な笑い声と活気に満ち溢れた店内は、気取らない雰囲気です。手打ちそばは細めでしっかりとしたコシがあり、「もり天」は桜えびの天ぷら等3つも天ぷらがついて700円と安い。山中にありながら、それでもおいしいそばのために平日でも沢山の人が訪れる。陽気な店員との会話も楽しみ、新鮮な空気と笑い声にきっとくつろげるはず。外にはお店の方手作りの採れたて野菜も販売されている。



10 御殿山広場

車一台がやっと通れる細い道をたどって行くと、御殿山広場がある。自然あふれる広場は沢山の蝶が飛び交い空気がとてもきれい。御殿山広場からは太平洋を見渡せ、開放的な気分になる。



11 お休み処

蒲原で一番古い旅籠跡(和泉屋)の内2間を旧蒲原町が買い、現在NPO法人「駿河裂織倶楽部」が静岡市から委託を受け、運営しているのがここ「お休み処」。よって、「お休み処」はNPO法人「駿河裂織倶楽部」の活動の場でもある。こちらの倶楽部は、今は絶えてしまった蒲原伝統の裂織を再興し、次の時代に伝えていく為、機織・裂織・藍染体験など行っている。昔ながらの旅籠跡で、コーヒーや薬膳茶を楽しめるうえ、蒲原の文化に触れることができるのである。

2階の床は、安政の大地震の名残でやや傾いている。そこには、絹織り用の機織機や100年位前に織られた色鮮やかな着物が展示されていた。蒲原の裂織の特徴は、潮風を利用して布を裂き織るため他の地方に比べて柔らかく織れ、色合いが明るいこと。色合いの明るさは、温暖な気候と、強制ではなく、皆が裂織を好きで織っていたことに由来するようだ。



12 清美軒

和泉屋の斜め前に昔の旅籠屋を再現したような外観の建物がある。昔から地元で愛されているパン屋「清美軒」。このオススメはなんといっても昔から変わらない「メロンパン」(税込み116円)。上はサクサク、生地はモチモチ。散策で小腹がすいたら是非寄ってみては。



13 「蒲原夜之雪」記念碑

小川沿いにひっそりと佇んでいるのは、昭和35年に建てられた「蒲原夜之雪」記念碑。安藤広重が天保3年(1832年)4月、幕府の朝廷への献上使節の一行に加わって京へ上った折、蒲原で描いた東海道五十三次シリーズの一つ「夜之雪」が、国際文通習慣の切手になったことを記念して建てられた。



14 JR新蒲原駅

蒲原の人々の足となるJR東海道線。新蒲原駅は、人々が集まる憩いの場でもある。木のベンチや時刻表は、昔ながらの駅舎の趣を残している。電車待ちの人々は木のベンチに座り、自然と談笑がはじまる。なごやかな風景である。新蒲原駅を出てふと足元を見ると、東海道五十三次のカラータイルが敷いてあり、タイル版「夜之雪」を楽しめる。宿場町「蒲原」にやってきた、と実感できる瞬間である。



15 西木戸・東木戸 スタンプ処

西木戸から東木戸までの約1.2kmが旧東海道蒲原宿となる。その目印に建っているのが西木戸・東木戸の石柱。隣にはスタンプ台があり、「夜之雪」をモチーフとしたかわいいスタンプを押すことができる。まずはスタンプを押してから旧東海道蒲原宿にタイムスリップするのも良いかもしれない。そぞろ歩きた後は、もちろんもう片方のスタンプを押して現代に戻ることをお忘れなく。



16 日本軽金属株式会社

日本で唯一のアルミニウム総合一貫メーカーの「日本軽金属株式会社」。アルミニウム地金から各種加工製品にいたる複合事業化を担うこちらの蒲原製造所は、昭和15年10月に操業を開始した。平成15年12月にはISO14001の認証を取得し、現在従業員約1500名を擁する蒲原で一番大きな規模の工場となっている。

自家発電

蒲原製造所の工場群を動かす電力の大部分は、日本一の自家用水力発電所により供給されている。



ボーキサイト

はるかオーストラリアや東南アジアから輸入している。



アルミ建築構造材

2002年に建築基準法が改正され、建築構造材としてアルミの使用が可能となった。鉄、木材、セメント等と同様に建築構造材としてアルミの需要拡大が期待される。



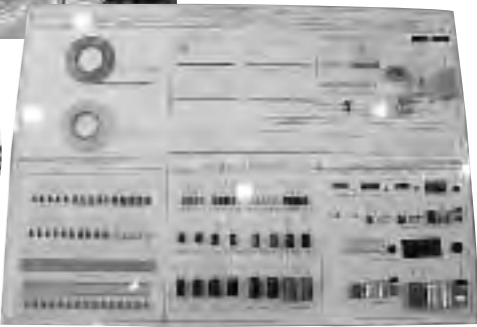
ボランティア活動

地元へ貢献する会社として、「清掃ボランティア活動」を年2~3回行い、約350名を動員して街をきれいにしている。また、「小さな親切運動」にも参加し、蒲原の街だけでなく、富士川沿いにも出かけ、年4回の清掃に汗を流し、水力発電の元となる富士川に感謝の念を表している。



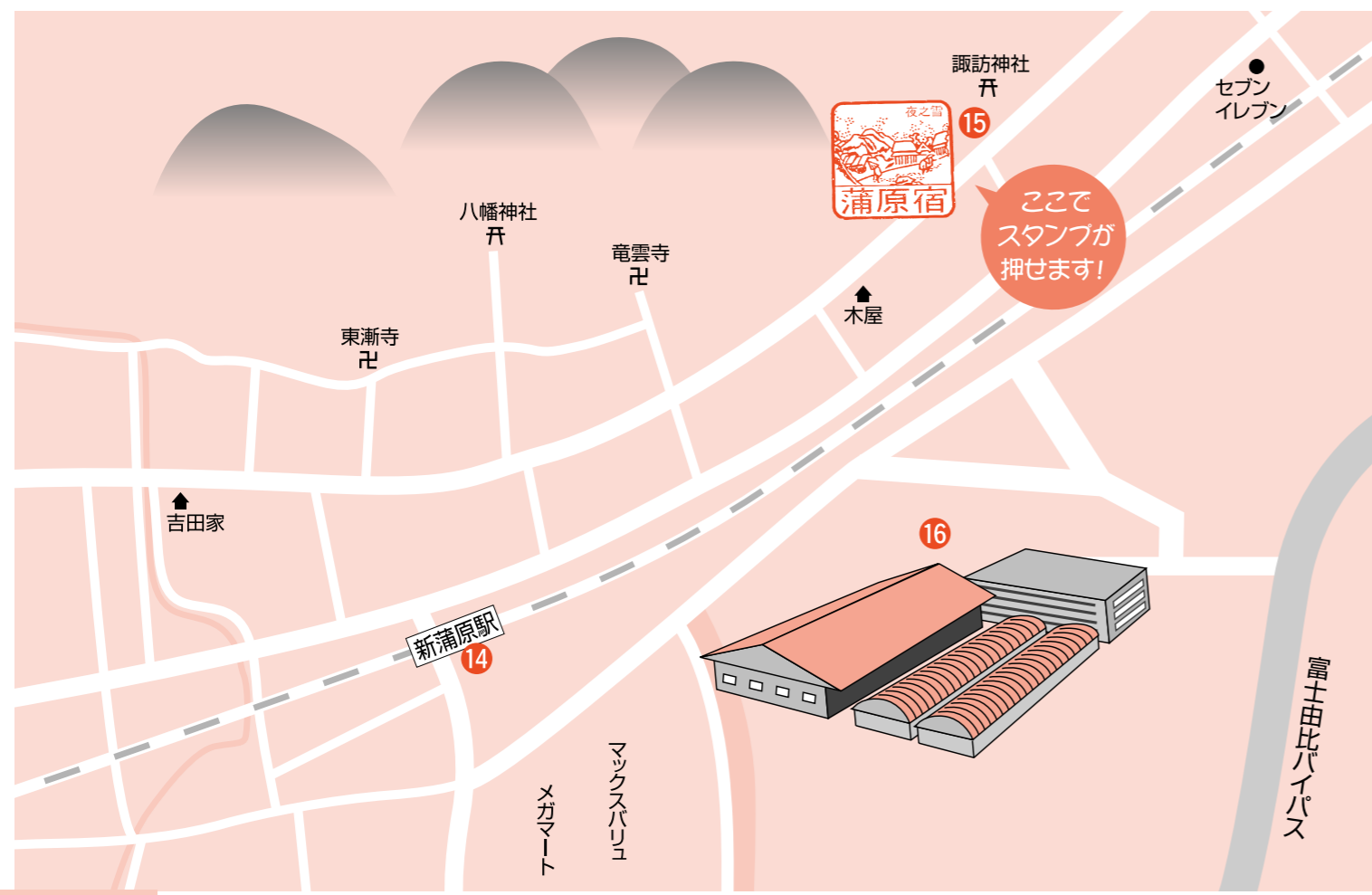
工場内展示室

蒲原製造所内には、工場見学に来られるお客様に対応するため、充実した展示室がある。



床下調湿用炭

自家用発電として活用している雨畑ダムと柿元ダムに流れ着く流木を、資源の有効活用と環境保全の視点から「炭」にし、床下の湿度調整に役立てようと試みている。環境に配慮し、また、アルミニウムに留まらない今後の蒲原製造所に注目だ。





旧五十嵐邸

◆ かんばらNPOネットワーク

「蒲原地域にある民間非営利組織(NPO)の相互の連携及び連帯により、NPO団体の社会貢献活動を促進し、行政、住民、事業者と協働して、豊かな地域社会の発展に寄与することを目的に活動を進めています」

月1回の定例会では、それぞれの団体がやっている活動や計画

などの情報を交換し合い、活動が地域全体のものになるようにしているという。また毎月1回発行される「かんばらNPOネットワーク通信」では、毎月各NPOの活動や予定を掲載し、地域に広く情報を発信している。

「地域のことは他人ごとではない。(行政ばかりでなく)半分は私たちの責任だから」という蒲原地域の住民気質が活発な市民活動を支えているのだろう。

◆ 旧五十嵐邸を考える会

旧東海道沿い、周りの宿場の雰囲気とは少し趣の異なる洋館「旧五十嵐邸」が建つ。明治初期に建築された当初は町家造りであったが、歯科医院の開業と同時に洋風に改築され、さらに昭和にかけて増築されている。何度も手を加えられた建物は、バランスを崩すどころか、見事に調和の取れた建築物となっている。

中に入ると、1階は洋風の外観とは趣向が異なり、在来の町家の特徴を残す面白い造りとなっている。明治、大正、昭和の建築を1つの建物で見ることができるのも興味深い。

その旧五十嵐邸を旧蒲原町の時代から管理運営してきたのが、「NPO法人 旧五十嵐邸を考える会」である。

同会は平成8年から3年

間続けられた「まちづくり講座」において、旧五十嵐邸の活用を検討していく過程で作られたグループ。現在32名の20～70代の幅広い年齢層が活躍している。

「まちづくり講座」で立ち上がった人たちと、当時の町行政との協働作業で、廃墟のようだった「旧五十嵐邸」はよみがえった。

現在同会は行政から委託されている施設の管理のみでなく、自主事業としてコンサートなどを実施している。

「自主事業はみんなで力を合わせて作るのが楽しい。どの事業も手を抜くことはない。事業をやることは、来てくれるお客様にとってプラスになるように考えているし、私たちにとってもプラスになる。」という。

同会はこの建物を管理するだけでなく、「活かす」ことを目的に活動をしている。人が集まり、そこから生まれるものを地域に還元しているのである。



◆ 蒲原宿「まちなみの会」

東海道の宿場町に受け継がれてきた歴史ある建物や、まちなみのすばらしさを後世に伝えようと活動している。

宿場祭りの時には「みせの間」をギャラリーとして開放し、古い建物を知ってもらいイベントを行い、又、まちなみづくりや建物の活用などについて専門家を招き講演を開いている。

そのほかにも、旧蒲原宿の道路の舗装、街灯やガードレールの色や形について「町民投票」というかたちで行政に提案したり、

後世に残したい歴史的な建造物や風景などを会員が探し出し、感謝状を送る「まちなみ資源探し」も行っている。

蒲原のまちなみはバラエティに富んでいる。江戸時代の宿場の名残を残す町家造りの建物や、明治・大正時代に立てられた洋館、昭和に建てられた家などを見ることができる。平成に入ってからの建物には、まちなみに調和するように町屋造りの外観で立てられた商店などもある。

「蒲原の街に来ると落ち着く」という旅行者は多い。ぜひ後世にこのまちなみを伝えてほしい。

◆ 東海道「蒲原宿」の会

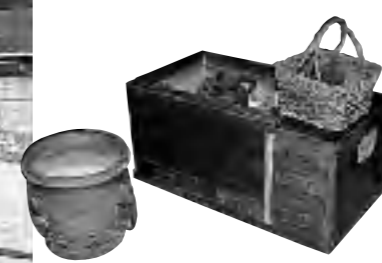
志田邸は安政元年の大地震の翌年(安政2年1855年)に建て直された、蒲原町最古に属する町屋で、江戸時代からやま六の屋号で、米、塩、油、醤油などを商いしていた。平成13年には国の登録有形文化財にも指定され、今年で築151年を迎える。

その管理運営を行っているのが、東海道「蒲原宿」の会である。平成5年の立ち上げから13年になる同会は、現在会員約40名で活動している。活動内容は、蒲原宿寺子屋など勉強会の開催や、展示会、宿内ボランティアや食事会の開催など多岐にわたる。

なかでも真塗りの器を使い、江戸時代の食を再現する江戸ご前は、一度は食してみたい一品。蒲原の旧家から見つかった資料をもとに150年前の結婚式の料理を再現したのが始まり。現在は古文書を読み解き江戸の食文化を再現し、4月の桜まつりや、11月の宿場まつりなどで提供している。



志田邸



蒲原の魅力、それは「まちづくり」への心意気
静岡大学人文学部教授 日詰一幸

自分たちの住む「まち」を大切に、その豊かさを創りだそうという自発的な活動は、地域の人々が主体のまちづくりには欠かすことのできないことではないかと思ひます。旧蒲原町(現在、静岡市清水区蒲原)はまさにこのことがぴったり当てはまる地域です。蒲原地区の人口は約11,000人ほどですが、そこで活

動するNPO法人の数がまもなく11になろうとしています。したがって、1,000人への割合でNPO法人が存在することになります。これだけNPOの密度が高い地域は、日本全国を探してもそれほどないのではないかと思ひます。

蒲原は、旧東海道筋に位置しているということから、歴史的建造物など文化財が豊富にあり、加えて自然環境に恵まれているという条件も手伝い、これらをまちづくりに活かす活動が盛んに行われてきた経緯があります。そして、町のレベルでは、全国で2番目の「NPO活動促進条例」が策定され、行政も地域の人々も皆がNPO活動に対する認識を深めていったことも、蒲原の活気を生み出す上で大切なことではなかったかと思ひます。

何と言っても、地域の人々が立ち上がらない限り魅力的なまちづくりは困難でしょう。蒲原がこれまでやってきたことは、これからのまちづくりのモデルと言ってもよいのではないのでしょうか。

静岡音楽館AOI 静岡アートギャラリー 静岡科学館るくる共同事業 チケットでスマイル

Ticket de Smile

静岡音楽館AOI(主催コンサート)、静岡アートギャラリー(主催展覧会)、静岡科学館るくる(1日入館)のチケットをお店で見せると、お得なサービスが受けられます!(サービス内容はお問い合わせください)

チケット見せて
お店でスマイル!
You are happy!
by showing the ticket.

- チケットに記載の日付(期間)に限り、1回ご利用いただけます。
- サービスの内容を予告なく変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。

- 1 ホテルセンチュリー静岡
レストラン「ラフルール」 ☎054-289-6410
ロビー・ラウンジ ☎054-289-6410
鉄板焼「けやき」 ☎054-289-6413
中国料理「翡翠宮」 ☎054-289-6411
日本料理「花凜」 ☎054-289-6412
トップラウンジ「エマイユ」 ☎054-289-6414
- 2 魚彩 静岡南口店 ☎054-289-7488
- 3 トラットリアー丁目 静岡南口店 ☎054-202-2701
- 4 cafe and bar「aura」(アウラ) ☎054-221-9527
- 5 ブラッセリー「Du Sel」(デュ・セル) ☎054-221-9059
- 6 レストラン「comme des poissons」(コム・デ・ポアソン) ☎054-283-3535
- 7 珈琲の店 レザン ☎054-253-7641
- 8 PUB☆きらら ☎054-283-1251
- 9 テネシーローズ ☎054-255-4222
- 10 Decor Cake Studio(ケーキ教室) ☎054-202-3810
- 11 スペイン料理とお酒 LAS TAPAS(ラス タパス) ☎054-253-1127
- 12 エンゼル ☎054-252-6310
- 13 静岡シネ・ギャラリー ☎054-250-0283
- 14 本格和風酒処「さかな屋」 ☎054-273-7412
- 15 イタリア料理「Latina」(ラティーナ) ☎054-289-6522
- 16 会席しゃぶしゃぶ「花文」 ☎054-252-3200
- 17 ホテルアソシア静岡ターミナル
ブッフェレストラン「ルミエール」 ☎054-254-4470
イタリアンバー「チャオプラス ウインザー」 ☎054-271-2293
- 18 静岡駅北パーキング ☎054-252-0120
- 19 ルモンドふじがや ☎054-251-0066
- 20 Bar Chaton ☎054-251-3980
- 21 美容室アクシア。アキ ☎054-221-1886



静岡音楽館 AOI
☎054-251-2200



静岡科学館 るくる
☎054-284-6960



静岡アートギャラリー
☎054-289-5400

From Editor

編集後記

- ◆ 蒲原の魅力はそのまちなみもさることながら、蒲原に住む「人」だと感じました。蒲原を誇りに思い、大切にしている気持ちの強い方々が支える蒲原はきっとこれからも魅力ある町へと発展し続けていくのだらうなと思います。
- ◆ 暑い中での取材となりましたが、見所沢山であっという間に一日が過ぎました。蒲原の魅力をもっと伝えることが出来たら幸いです。

参考・文・献

- 蒲原町制100周年記念アルバム『かんばら物語』 発行:蒲原町役場
- 『蒲原町勢要覧』 発行:蒲原町役場
- 『かんばらっ子〜子どももおとなも元気になるまち〜』 発行:蒲原「子どもと文化」研究会
蒲原町教育委員会・生涯学習課
- 写真提供(あの日の時)
鈴木義和氏

静岡文化情報「街かど」第28号

- 発行(年2回)
平成18年10月
- 編集・発行
(財)静岡市文化振興財団
〒420-0031
静岡市葵区呉服町二丁目1-1 札の辻ビル6階
TEL.054-255-4746/FAX.054-653-3501
E-mail:bunshin@world.ocn.ne.jp
- 印刷
株式会社ハビア中央
静岡市駿河区小鹿一丁目62番18号



今が旬の桜えび

レンピ付きで
お届けします!

ご購入や商品についてのお問い合わせはこちらです。
☎0543-88-2220 (受付/平日10時~17時)
メールでのお問い合わせは24時間受付中!

インターネットからのご注文は
<http://www.marugen.net/>

セット商品は、全国送料無料
ご注文は翌営業日発送!

株式会社 まるげん

静岡 呉服町通り
蒲菊本店でもお買い求めいただけます。

静岡市清水区蒲原中302-7
※JR蒲原駅より南東へ徒歩5分



豊かな明日を築く、
皆様のネットワーク
ステーション。

静岡県総合研修所もくせい会館
静岡県職員会館

〒420-0839 静岡市葵区鷹匠3-6-1
TEL.054-245-1595
FAX.054-245-1669



NLM 日本軽金属株式会社

蒲原製造所 〒421-3297 静岡県静岡市清水区蒲原161 TEL 0543 (85) 2111



環境 ISO14001
認証取得

日本で唯一のアルミニウム総合一貫メーカー...
日本軽金属の蒲原製造所は、
優れた技術で、お客様のニーズにお応えしています。

品質 ISO 9001 認証取得
環境 ISO 14001



日本軽金属グループ 総合サービスメーカー

NLM 株式会社 ニツカン

〒421-3203 静岡県静岡市清水区蒲原206

本社・総務部 TEL 0543 (85) 2522(代)

生産部 TEL 0543 (85) 2522 加工部 TEL 0543 (85) 4417

施設部 TEL 0543 (85) 2566 印刷部 TEL 0543 (85) 7243

電気部 TEL 0543 (85) 2566 営業部 TEL 0543 (85) 2522

日本軽金属蒲原製造所をサポートする
アウトソーシング & 人材派遣

NLM 日本軽金属グループ エヌケイエス株式会社

〒421-3203 静岡県静岡市清水区蒲原161 TEL 0543 (85) 2282

随時 社員募集中